進路だより

秋田県立秋田きらり支援学校
第７号
令和３年３月５日発行

卒業後に向けたスタートを

秋田きらり支援学校
校長 新 目　基

早いものでついこの前令和2年度がスタートしたと思ったら、もう年度のまとめの時期になりました。確かテレビだったと記憶していますが、「時の流れの早さは、年齢に比例する」と話している人がいました。1歳の人の人生は1年間、2歳になった年の1年は2年間分の1年、10 歳になった年の1年間は 10 年間分の1年になり、30 歳になった年の1年間は 30 年間分の1年となる。1年間と言う月日は、本来いつも同じように経過しているはずですが、年齢を経ていく度に1年という長さの感覚が短くなり、それが時の早さとして感じるというものです。

なるほど自分自身を振り返りますと、毎年毎年、時の流れが早くなっているのは、そのような理由からなのだと妙に納得してしまいます。皆さんはどう思われますか。

この説では、小学部より中学部、さらに高等部と学部が進むほどに、子どもも保護者も時の流れの速さを感じることになります。そう考えると成人期よりも少し時の流れが緩やかな学校在学中に、さらには小学部から一つでも多く一人でできることを身に付けることが肝要だと私は考えます。

本校卒業生で東京パラリンピックを目指している菅原紘汰さんのお母さんは、幼稚園に上がる前から将来のことを考え、自分の事は自分でできるよう紘汰さんを育ててきました。

紘汰さん自身も他の人からの支援を受けなくとも自分でできるよう努力したり、一人でできるための道具を工夫したりしてきました。その時の努力が、トップアスリートだけが使用を許されている東京赤羽のナショナルトレーニングセンターへの公共交通機関を使った自力での通いや海外遠征に結びついていると考えます。

自分のことが一人でできるという当たり前のことが、障害から派生する困難さのためにできないことは多々あります。しかし、できないからあきらめるのか、支援してもらえるから良いと考えるのか、それとも時の流れの緩やかなこの時期に時間をかけ少しずつできるよう努力していくのか、道具や環境を変えることでできるのではないかと模索していくのかなど、できないことに対してどのように考え、対処していくのかを決めていくことが子どもの「自立と社会参加」に大きな影響を与えるような気がします。

今年度は、昨年から引き続き新型コロナウイルス感染症対策に追われ、時はいつもの年と変わらず刻まれているにもかかわらず、私自身はいつもの年以上に月日の流れの早さを感じた1年でした。

時の流れを考えると、子どもたち一人一人の将来像を思い描き、そこに迫るための手立てを、入学した早い段階から学校・担任と共に探っていくことが、子どもたちの「自立と社会参加」につながると考えます。時間は決して無限ではなく、待ってもくれません。むしろ今回のように様々な要因によって、時の流れが早く感じることもあります。だからこそ一つでもできないことをできるに変えていく気概が求められるのです。

是非、本人はもちろんのこと、御家族、学校、様々な関係機関など子どもに関わる多くの人々がこのような思いを共有し、子どもと共に将来に向けての第一歩をできるだけ早期に踏み出したいものです。

～お詫びと訂正～

「進路のてびき（第6版）」21ページの「第二聖和」の電話番号に間違いがありました。正しくは**「018-874-9616」です。**訂正してお詫びいたします。

高等部卒業後のサポートについて

高等部3年生は、卒業によってこれまでの生活が大きく変化します。社会に出るにあたり、不安もあることとは思いますが、身近なサポート機関と、ぜひつながりをもち、安心して卒業後の生活を送ってほしいと願います。

障害福祉サービスを利用する場合

＊各市町村　障害福祉担当

（手続き関係）　等

＊相談支援事業所の相談支援員

（日常生活の困りごとの相談）

（課題の解決やサービス利用に向けての情報提供、関係機関との調整、

サービス利用時の代行業務）　等

一般就労した（したい）場合

＊就業・生活支援センター　（秋田県に8カ所あります）

（障害者の就業支援（企業就労と福祉的就労の支援及び職業定着支援）

（職業生活に伴う生活支援）　等

例～就職したい・・・（就労経験有り or 無し）

離職した…再就職したい。失業給付の手続きがわからない…。

障害年金の申請をしたい…。障害手帳の申請をしたい…。

働いていないが日中の活動の場がほしい…。

行政（労働・福祉・一般）手続き関係ができない…。

「ウェルビューいずみ就業・生活支援センターHP」より

いつでも

＊学校～元担任、進路担当、学部主事、知っている先生・・。

（相　談）学校での相談、必要な情報の提供　等

（追指導）卒業後、原則3年間、進路先での状況把握や必要な支援の実施　等

（同窓会）入会することで、学校行事の案内配付、同窓会活動への参加　等

（懐かしい仲間と顔を合わせ、親睦を深めることで、気持ちも新たに進路先でがんばることができるようです。）

秋田市障がい者総合支援協議会相談機関連絡会が主催する「障がい児者総合相談会」も定期的に開催されています。

（文責：近江）

来年度も保護者の皆さんに必要な情報をお届けしていきます。
１年間、進路だよりをご覧いただきありがとうございました。